

## 「応援消費」で被災地を支援！能登半島応援フェア

杉並区は、令和6年能登半島地震への支援として、一般財団法人杉並区交流協会と連携し、石川県能登地域にある道の駅の商品を販売する取組を始めました。

販売初日の2月5日（月）には、区役所1階ロビーに特設コーナーが設けられ、石川県かほく市の道の駅「高松」から仕入れた、とり野菜みそや能登牛カレー等の特産品が並びました。当日は悪天候にも関わらず、各商品は順調な売れ行きを見せ、約200個あった商品は昼過ぎには完売しました。

今後は、石川県内灘町から、ふるさと納税の返礼品にもなっている「水ぎょうざ『はまなす』」や、ホリ牧場の牛乳をたっぷり使った「夢ミルク館プリン」等を取り寄せて販売していく予定です。被災地の特産品を購入することで支援に繋がる「応援消費」に、継続して取り組んでいきます。

今回の取組は、杉並区の交流自治体である新潟県小千谷市が事務局を務める「中越大震災ネットワークおぢや※」に加入する自治体のうち、石川県能登地域にあるかほく市と内灘町の商品を販売することにしました。

販売価格には、一定の寄附額を上乗せしています。商品を購入することで地元産業を支援し、販売価格に上乗せされた寄附で、被災した能登地域の自治体を支援する仕組みとなっています。

この取組を企画した文化・交流課五十嵐敬文さんは、福島県南相馬市からの派遣職員です。「私も東日本大震災で被災し、多くの皆さんに支えていただきました。私の立場でいま出来ることに取り組むことで、少しでも被災された皆さんの支えになりたい。」と、被災地への思いを語りました。

この取組は、杉並区役所1階のコミュかるショップ（杉並区阿佐谷南1-15-1）で3月29日（金）まで順次行う予定です。

\*\*\*\*\*

※2004年10月に、新潟中越地震の災害対応関係者が中心となり、災害対応の経験や教訓を共有し、次の災害に備え、経験やノウハウを伝えていくことを目的として立ち上げた組織。現在は、杉並区をはじめ、約90の自治体が加入している。



### 【問い合わせ先】

区民生活部文化・交流課交流推進担当：03-3312-2111 内線3781  
総務部広報課：03-3312-2111 内線1502